

平成 17 年度環境技術実証モデル事業 山岳トイレ技術分野における今後の課題(案)

(制度面)

(1) 実証試験手続きの効率化

実証機関や実証申請者となるための手続きを効率化することが必要となる。これにより、本事業をより広く普及することができ、山岳トイレ技術の改善・普及に貢献することができる。

(運用面)

(2) 実証試験の簡素化と自主化

実証機関や実証申請者に対し、実証試験での人的・時間的な負担、および費用面での負担を軽減する方策を検討する。そのためには試験実施方法の効率化や参加機関の役割分担を見直し、申請者自身の自主的業務とする方法の導入を検討する。

(3) 実証試験の継続性

簡素な試験を継続的に実施する体制も構築していくことが重要といえる。対象技術の継続的な試験により、メンテナンス面での観点も含めた性能を把握し、実証試験を行うことが求められる。

(4) 実証試験のコストダウン

手続きを簡素化し、実証試験も簡素化・自主化することにより、試験を受ける申請者のみならず、実証機関も人的・時間的負担を軽減することができ、コストダウンを図ることが可能となり、本事業の一層の効率化と普及につなげることができる。

(利用面)

(5) 参画者の拡充

実証試験事業を全体的に簡素化し、その効果が分かりやすく、成果が見える形に変えていくことが求められる。具体的には、手続きをシンプルにし、試験方法を簡素にする一方で、出された結果を当事者に速やかに伝えるとともに、多様な伝達手段でもって広報することが肝要である。年度毎に、シンポジウムや研究会を開いて試験結果や対象技術の運転状況について報告することにより、山岳トイレ技術や実証試験のレベルアップ、事業の広報・PRすることも重要なことと思われる。